

第4回気道管理学会学術集会感染対策

- ① 一般的なサーモグラフィ・アルコール設置に加え、参加者把握のための**参加者登録**をお願いいたします。参加登録は12月上旬より開始いたします。
- ② 密接対策としては、**サージカルマスクとフェイスシールドの配布**を行います。両者がサージカルマスクを着用していれば、感染対策効果は約85%であり片方の場合5%と言われています。ご持参の布マスク等ではなくサージカルマスクの着用をお願いいたします。
*フェイスシールドとサージカルマスク着用している限り、マスク着用なしのCOVID陽性患者と接触したとしても**サージカルマスク着用で就業可能**となっております。(CDC暫定ガイドライン)
- ③ 会場内での長い**おしゃべりは禁止**といたします。(とくに廊下などの移動スペース)
- ④ 密閉対策として、厚労省のコロナ状況下での**換気量推奨値 30 m³/h・人**(CO₂濃度を1000ppm以下にコントロールするために必要な換気量=ニューノーマル基準)で計算し、**会場の定員を定め**ました。使用される会場は全て、定員の2/3で、この基準を満たしています>(*下記参照)
- ⑤ 密集対策として、**1000人規模の会場を予約**(昨年参加300人)し、最大で定員の2/3程度を目安に収容人数調整します。**かたまって座らないよう**をお願いいたします。
- ⑥ ランチョンセミナーは**15分以内に談笑せず食べ、食べ終わったらすぐにマスク着用**をお願いいたします。
- ⑦ オープンハンズオン(オフ)セミナーでは、**マネキンを感染患者に見立て**、全て、グローブ マスクの着用をお願いする予定です。ブロンコスコープセミナーでは、**アイソレーションガウンテクニックのPPE**も含めたセミナーを予定しています。マスクの上に**アイシールド**使用も検討しています。
- ⑧ 講演では講演者の横に**空気清浄器**を設置予定です。
- ⑨ 展示については、広い空間で行い、**分散配置**を心がけます。
- ⑩ 換気の排気口近くに人が集まらないような**導線を考慮**します。

※換気量=外気の導入量(m³/h), 換気回数=換気量/室容積, 収容可能人数=換気量/30(厚労省が推奨する一人当たり30m³/hに順じ算出)

※講堂の換気量はCO₂濃度および室温による比例制御であり min6000~max18200 m³.
(800ppmを超えると徐々に風量増加)

各室換気量計算							
室名	面積(m ²)	天井高(m)	室容積(m ³)	換気量(m ³)	換気回数(回/h)	収容可能人数(人)	定員
13F カンファレンス	310.44	2.7	838.2	4200	5.0	140.0	250
12F カンファレンスN・S	58.9	2.7	159.0	450	2.8	15.0	18
1F カンファレンス	155.24	3.1	477.4	3150	6.6	105.0	100
B1F 講堂	530.74	(平均天井高) 5.1	2706.8	18200	6.7	606.7	500
B1F コラボスペース	74.83	3.0	224.5	1650	7.3	55.0	-
B1F 多目的スペース	100.73	3.1	309.7	600	1.9	20.0	-